

Dr. 西上

## 「医師のやりがい」

学生時代に経験してほしいこと

「被災地は今…、医学生が取り組んだ被災地支援ボランティア」

「2014年 受験生アンケートの結果」



大阪民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。2013年、連合会設立60周年を迎えました。現在、4つの病院、49の診療所、7つの歯科事業所、2つの老健施設、22の訪問看護ステーション、33の保険薬局、そして1つの看護専門学校が、大阪民医連に加盟しています。病院・診療所での実習、随時受け付けています。

### 奨学金制度

大阪民医連は、いつでも、どこでも、だれもが安心してよい医療を提供できる医療機関を目指しています。私たちの医療活動に共感し、ともに働く意思がある方を対象に奨学金を貸与しています。

### 対象学年と奨学金額

1～2年生 **50,000円**

3～4年生 **60,000円**

5～6年生 **70,000円**

### 大阪民医連の病院紹介

私たちの病院は差額ベッド料を徴収していません

#### 耳原総合病院

一般386床

標榜  
科目

内科、循環器内科、消化器科、呼吸器科、小児科、外科、胸部心臓血管外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、産婦人科、皮膚科、精神科、泌尿器科、神経内科、脳神経外科、麻酔科、放射線科、肛門外科、リハビリテーション科

臨床研修  
指定病院



〒590-8505 堺市堺区協和町4丁目465 (南海高野線堺東駅よりバス)  
TEL. 072-241-0501 (代) E-mail. igakusei-3@mimihara.or.jp  
URL. <http://www.mimihara.or.jp/sogo/>  
■ ブログ更新中! <http://blogs.yahoo.co.jp/kensyuuiroom/>

「様々な視点で実習を!!」

#### 西淀病院

一般110床・亜急性期54床・リハビリテーション54床

標榜  
科目

内科(呼吸器、循環器、消化器、神経、糖尿病)、外科、整形外科、小児科、婦人科、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線科、血液浄化室(人工透析)

臨床研修  
指定病院



〒555-0024 大阪市西淀川区野里3-5-22 (JR東西線御幣島駅徒歩5分)  
TEL. 06-6472-1141 (代) E-mail. igakusei@yodokyo.or.jp  
URL. <http://www.yodokyo.or.jp/nishiyodo/index.html>  
■ ブログ更新中! <http://nishiyodo.blog54.fc2.com/>

「地域医療を実感!!」

#### 東大阪生協病院

一般52床・リハビリテーション47床

標榜  
科目

診療科目: 内科、循環器科、消化器科、呼吸器科、外科、整形外科、肛門科、小児科、眼科、リハビリテーション科、神経内科、皮膚科、泌尿器科、放射線科



〒577-0832 東大阪市長瀬町1-7-7 (近鉄大阪線長瀬駅徒歩3分)  
TEL. 06-6727-3131 (代) E-mail. igakutai@rainbow.or.jp  
URL. <http://www.iseikyokawachino.jp/higasiosaka/>

「病院から在宅へお手伝い!!」

#### コープおおさか病院

一般108床・亜急性期8床・リハビリテーション50床

標榜  
科目

診療科目: 内科、循環器科、消化器科、呼吸器科、心療内科、外科、肛門科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、小児科、眼科、リハビリ科、放射線科、歯科、小児歯科、矯正歯科



〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見3-6-22 (地下鉄長堀鶴見緑地線今福鶴見駅徒歩4分)  
TEL. 06-6914-1100 (代) E-mail. igakusei@health-coop.jp  
URL. <http://www.osh.coop/>

「チーム医療を体験!!」

大阪民医連  
(大阪民主医療機関連合会)

〒541-0054  
大阪市中央区南本町2-1-8  
創建本町ビル2階  
お問い合わせ ☎06-6268-3970

病院実習、奨学金制度についてのお問合せ・お申込み先

医学生.com

検索

<http://www.oskmin-igakusei.com/>



**患者さんや家族から感謝されるやりがい**

医師の喜びは、なんといっても患者さんや家族から感謝されることです。重症の患者さんが無事に退院できた時。早期癌を発見して治療できたとき。高齢の患者さんや末期がんの患者さんの終末期を、家族と一緒に安らかに看取れたとき。大事なのは、治療や療養の方針を、患者さんや家族と十分に話し合っ、納得の上で進めていくことです。私がまだ研修医2年目の時に肺がん末期の患者さんを受け持ったことがありました。家族の希望で患者さんには病名が告知されておらず、呼吸困難が強くなったため入院しました。点滴や検査など様々なことをしていましたが、本人には説明できませんでした。ある日患者さんから「あなたは私の主治医だろ？悪い病気でよいので本当のことを話してくれ」と言われました。家族を交えて肺がん末期であることを告知。すぐに本人から退院希望がなされ、自宅で2週間ほど暮らして亡くなりました。告知したときに患者さんから「ありがと」と言われたことを今でも覚えています。

**人間の生きる力に感動**

患者さんの生きる姿から力をもらうこともあります。脳梗塞になり右半身麻痺で入院した60歳の男性。入院治療の2週間に困窮しており、無保険だったため病院にかかれなかったのです。すぐにケーヌワーカーが関わって生活保護を申請。医療保険が使えるようになって入院治療しましたが、1月ほどで亡くなりました。だれもが安心して医療を受けられるような制度ができて、貧困がなくなれば、医療だけでは人間の命や健康は守れないのです。もっと住みよい社会にしていくことにも、医療人として関わらなければと思います。

**地域の人々とつながって**

地域の人々の期待を感じることもたくさんあります。私たちの病院は、地域の人々が安心してかかれる病院を作ろうと、住民の方々がお金を出し合っった病院です。医療生協の病院なので、大勢の地域の組合員の皆さんに支えられています。組合員さんの集まるところで、私たちも病気の話をしに行くことも多いです。アルコール依存症の治療について講演したあとのこと。2週間ほどした私の外来に、組合員さんが一人の患者さんを連れてきました。その組合員さんは、地元で喫茶店をしているママさんで、生活に困った人にも安く食事を提供したりと、いろんな人々のお世話をしている方で、いろいろな人々のお世話をしている方ではないお客がいる。先生の話聞いてアル

**医師のやりがい  
学生時代に  
経験してほしいこと**

コープおおさか病院 西上喜房

いま私はコープおおさか病院（大阪市鶴見区）という150床ほどの小さな病院で働いています。内科、消化器を専門にしていますが、小さな病院なので



週間に今度は左半身の麻痺も出現。妻や子供とも離縁し一人暮らしだったため、自暴自棄になっていました。「病室の窓から飛び降りて死にたいと思うけど、手足が動かないのでそれもできない」と言っており、患者さんにどんな言葉をかけたらよいか悩んでいました。その後、患者さんは、看護師さんや理学療法士などたくさんの方のスタッフに支えられて、2か月ほどリハビリテーションに励み、奇跡的な回復を見せていました。ある日、病室で診察を終えて立ち去ろうとすると「先生、あなたに見せたいものがある」と患者さんに呼び止められました。患者さんは自力でベッドから起き上がり車椅子に乗り移りました。「もうあかんとおもったけど、ここまでできるようになったんや。頑張っ生きてみよ」と思う」と。どんな逆境にあっても、人間は様々な人の助けで、立ち上がることができるのだと、本当に感動しました。

**社会の在り方など視野を広げて**

残念なこともあります。50歳の女性でしたが、何か月も前から胸にできものができて表面から出血するほどひどい状態の患者さんが来ました。進行乳癌であることは誰がみてもわかる状態です。なぜこんなになるまで病院に来なかったのでしょうか。高齢の母と二人暮らしで、経

**学生の皆さんへ**

学生時代は自由に使える時間がたくさんあります。私も学生時代に、バスケット部、医療系サークル(医学生ゼミナール)、学生自治会などいろいろなことをしていました。学生時代に大事なことは、意見の違う友達と本音で議論すること。患者さんを理解するために、社会で何が起きているか、現場を見に行く体験だと思います。

私は大学2年の時に、西淀川の大气汚染問題に興味をもって、地域の患者さんに話を聞いたり、裁判を見に行ったりしました。その中で、住民の立場にたっって調査活動をしている医師に会い、自分も住民の健康を守るために、いろんなことができる医師になりたいと思っったものです。全国の医学生にも知っしてほしいと、全国医学生ゼミナールで西淀川公害について発表しました。

大阪という街で地域の人々とつながって医療活動している様子も、学生の皆さんに見に来てほしいと思います。大阪に住んでいる人々の生活に少しでも触れてほしい。1年生から病院見学、実習を受け付けていますので、ぜひ私たちの病院に遊びに来てください。

コープ依存症だと思っので連れてきた。」とのこと。本人にも病気の説明を行い一生断酒することを約束。それから何年も断酒を続け、仕事にも復帰して健康な生活を取り戻しました。このように、地域の温かい人々とつながる中で、病院はより役割を発揮できると感じました。

**お金のあるなしで**

**差別しない医療が誇り**

私たちの病院はお金のあるなしや、社会的地位で患者さんを差別しません。一般の病院ならば個室に入院すると個室料として、一泊に何万円ものベッド代を患者さんから徴収しています。私たちの病院は、大部屋でも個室でも同じで、医療保険の範囲で治療を行うので個室料はもらいません。だっって重症になっって個室に入らなければならぬ人にお金のあるなしは関係ないでしょ。病院経営は大変で



支援ニュース Vol. 01

# 被災地は今…、 医学生が取り組んだ 被災地支援ボランティア

**医学生被災地支援ネットワーク**

大阪民医連では、医学生の「被災地の復興に向けて何かしたいが、どうしていいかわからない」という思いに応えるため、2013年4月に医学生被災地支援ボランティアネットワーク(以下ネットワーク)を立ち上げました。ネットワークには、現在26名が登録しています。

**被災地の復興に向けて何かしたい**

これまでネットワークから被災地支援ボランティアに参加した学生は14年3月現在、8大学18名で、「被災地の報道は減ったが、この時期に実際に自分の目で被災地を見て、現実がどうなっているのかを確かめたかった」「震災当時は受験生で、ずっと何かしたいと思っていたが、きつかけがなかった」など、参加の動機は様々です。

**人と人のふれあいを大事に**

現地では、草刈りなどの作業をはじめ、仮設住宅や地元の公民館での健康チェックで血圧測定や問診を取ったり、現地の組合員さんたちと一緒に脳トレ体操や茶話会に参加し、一緒におしゃべりしたりと、活動内容は様々です。

午後からは、被災者の方から被災体験を話してもらいました。大変な喪失体験から、支援者との関わり中で少しずつ立ち直られたことが、支援者への感謝の言葉とともに語られました。

**本当の復興とは**

支援を通じて、被災地の現状が見えてきました。地域の健康づくり活動をされている渡辺さんからは、被災地で今起きていることについてお話を伺いました。その中

では、経済的な理由などから、特に高齢者や社会的弱者が仮設住宅から生活再建出来ないケースが多いこと、地元の方たちは一見元気そうに見えても、家族や自宅を失い、心には深い傷を抱えながら生活していることなど、まだまだ真の復興には程遠い現状があるという被災地の切実な現状が語られました。被災地に行くたびに、「私たちに何ができるのか」、改めて考えさせられます。

**医学生の見た「被災地」**

参加した学生からの感想の一部を紹介します。

「被災地の復興はある程度順調に進んでいると思うていたが、関上地区などほとんど復興の進んでいない地域があることに驚いた」

「地元の方の話から、そのような状況で生きる気力を失っている地域の方に自分達ボランティアが行動することで、気持ちが伝わり、気力を与えられればいいなと思う」

(大阪大1年Hくん)

「現地の方からお話を伺って、現地の方々の心情、思いに少しだが触れることができた」

「今後も継続して関わりたい」

(大阪大学2年Cくん)

「まだまだ問題は山積みだが、止まない雨はないと信じて、定期的にかさせてもらいたい」(徳島大学4年Kくん)

「TVで見えていた復興の違いを感じました。震災の傷跡はまだ癒えていない。これらが大切」

「笑顔で元気の印象持ちました。が、根底には震災の苦しみや悲しみがある。今の自分に何ができるか考える必要性を感じました」(京都府立医科大学4年Hさん)

「みんなでゲームをしたり、歌を歌ったり…。あの時のおばあちゃんたちの顔がわたしは忘れられません。半年前は落ち込んでいた表情をみせていたおばあちゃんたちが本当に楽しそうに、笑っている様子が見れて単純にすごく嬉しかったですし、元気をもらいました」

(大阪医大1年Aさん)

まだまだ被災地では深刻な課題がたくさんありますが、大阪民医連医学生被災地ボランティアネットワークでは、医学生のみならずと共に今後も被災地の復興に向けて何ができるかを考えていきたいと思います。



被災地支援ネットワークでは、メンバーを募集しています。  
メンバーに登録していただきますと支援日程の案内やニュース等をお送りさせていただきます。



2014年度

# 医学部 Medi-Wing 受験生アンケート結果報告

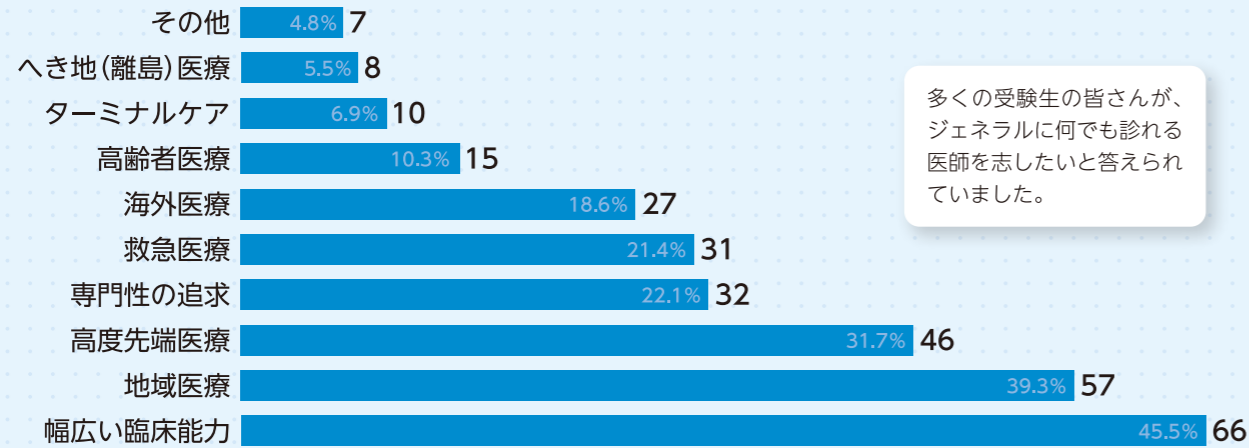
合計  
145名

アンケート実施期間(2014年2月~3月)

Medi-Wingでは、受験生の皆さんに将来の進路や関心があること、社会問題についてのアンケート活動を行いました。大阪大学・関西医科大学・近畿大学・大阪市立大学・大阪医科大学受験生の皆さん、寒い中にも関わらず、ご協力ありがとうございました。この貴重なアンケート結果を今後の編集に生かしていきたいと思っています。

## 将来どんな医療にたずさわりたいですか？

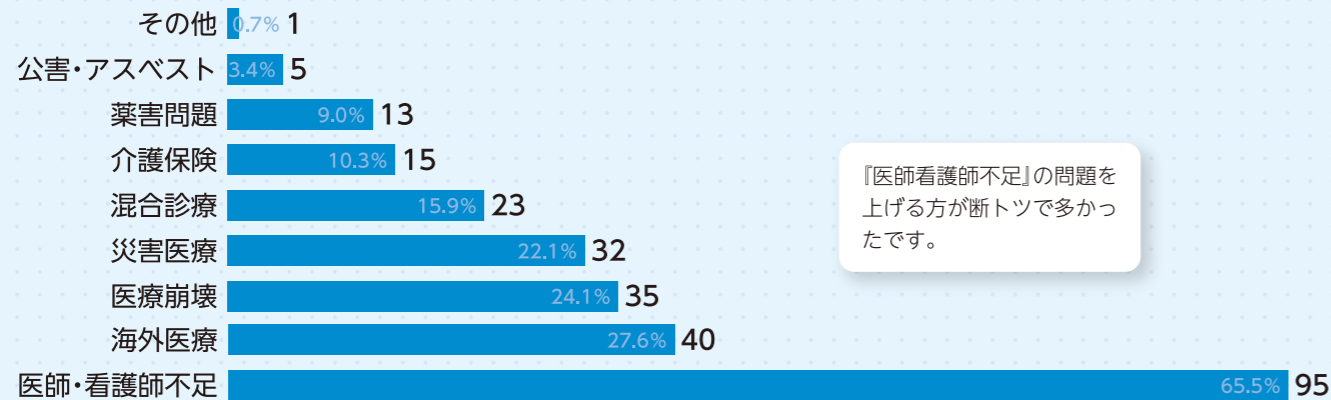
複数回答あり



多くの受験生の皆さんが、ジェネラルに何でも診れる医師を志したいと答えられていました。

## 医学・医療に関してあなたの関心があることは？

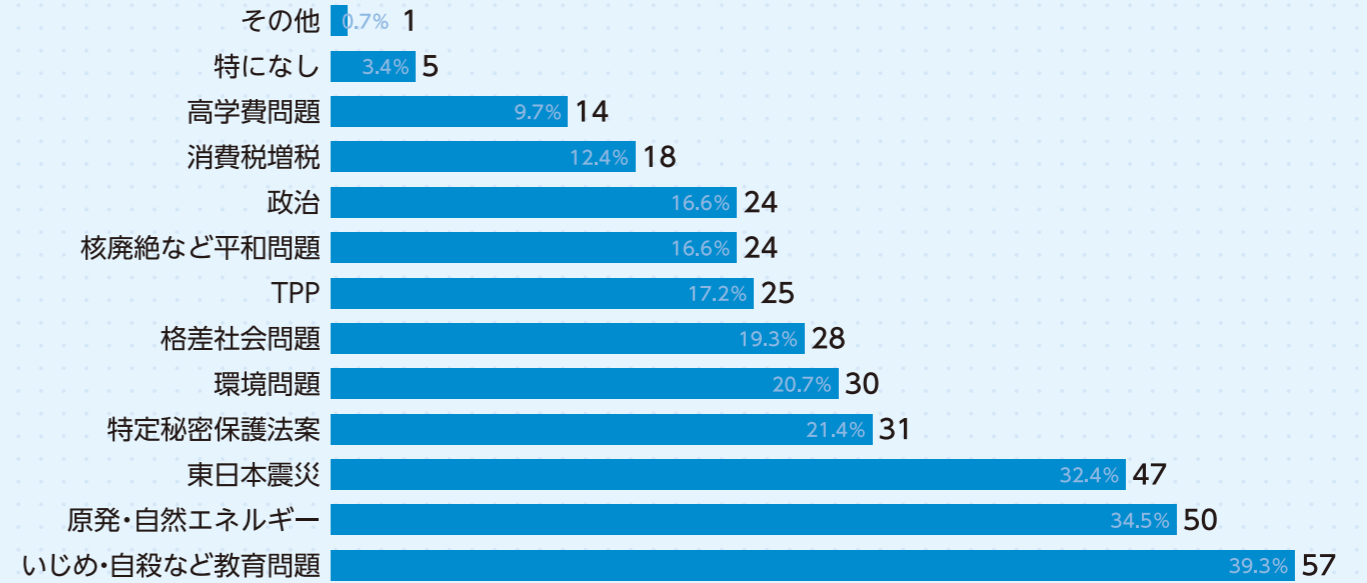
複数回答あり



『医師看護師不足』の問題を上げる方が断トツで多かったです。

## 医学・医療のこと以外で関心があることは？

複数回答あり



東日本大震災時に、高校生活を送っていた皆さんは、半数近くの方が『医師を目指すきっかけになった』り、『何らかの行動』をしていたことが、アンケートからみてとれました。また、8割の受験生の皆さんが、『震災支援ボランティアに参加してみたい』と答えられており、『何か人の役に立ちたい』という医師を志す受験生のみなさんのヒューマンな心意気を感じました。

民医連では、震災発生直後より各種ボランティア活動に取り組み、現在も生活支援を中心としたボランティア活動を医学生の方々と一緒に取り組んでいます。

## 東日本大震災で何か影響を受けましたか？



## 東日本大震災被災地ボランティアに参加したいと思いますか？

